

平成28年度 兵庫県立伊川谷高等学校 学校評価

- 教育方針

校訓「自主 協同」のもと、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成するとともに、明るく活力に満ちた校風と地域に愛される学校づくりをめざす。
- 教育目標

「命」と「人権」を大切にし、夢に挑戦する生徒を育てる。
- 重点目標

①基礎・基本の定着を図り、生徒の主体性・創造性を育む教育を推進する。
また、生徒に自己有用感とともに社会人として必要とされる基礎力、コミュニケーション能力を育み、社会的責任を果たせる生徒を育成する。

②家庭・地域との連携を密にし、地域に愛される学校づくりを推進する。

③教職員のコミュニケーションを密にし、「チーム伊川谷」により諸課題を積極的に解決する。
- ※「評価」は、本校職員による自己評価。4点満点での平均値。

領域	標語	分掌	重点 目標	評価の観点	評 価 項 目	No.	実 践 目 標	評価	改 善 方 策
総務・生徒指導・保健・進路	魅力発見！	総務	①	開かれた学校づくり	中学生や地域住民に本校の教育活動をPRする。	1	8月のオープンハイスクール、11月の学校説明会を通して、中学生や保護者に本校をPRする。	3.6	今後も継続して、本校の良さをアピールしていきたい。特に来年度は、ホームルームにエアコンが入るので、8月のオープンハイでは上手に活用したい。
			②	防災教育の充実	防災教育の充実を図り、防災意識を高める。また本校の防災体制を再点検する。	2	避難訓練、防火訓練を年に1回ずつ実施する。また、1年生対象に防災教育LHRを実施し、意識を高める。	3.4	来年度でやっと耐震化工事が完了するので、今一度、災害時に適切な対応ができるよう防災体制を点検していきたい。
			③	校内組織の円滑な運営	各部、学年、委員会の流れを把握し、学校組織としての効率性を高める。	3	学校組織の現状を把握し、縦断的な調整役となる。	3.3	校務運営委員会や職員会議などの会議だけでなく、日々の職務の中で各組織が緊密なコミュニケーションがとれるよう努力したい。
	未然防止・早期発見・早期対応	生徒指導	①	基本的生活習慣の確立	担任や、学年の先生とのコミュニケーションを大切にする。遅刻指導などを通して、生徒達の規則正しい生活習慣の確立を目指す。	4	教務部と連携し、教職員の共通理解のもと、チャイムが鳴ると同時に授業に入れる指導を全学年で実施する。また、遅刻指導に関しては、様々な場面においても時間に余裕のある行動がとれるように、反省文を書かせるなどして規則正しい生活習慣の確立を意識させる。	3.5	チャイムが鳴ると同時に授業に入れる雰囲気は定着している。今後も継続して余裕のある行動を習慣化させていく。連絡のある遅刻については理由や改善点も考慮して、丁寧な指導を続け、規則正しい生活習慣の大切さを認識させる。
			②	規範意識の醸成	校則をきちんと理解して守らせる。頭髮・服装指導や交通安全指導などを通して、規範意識を高める。	5	各学年・各部の教職員の協力を得て、毎朝、生徒昇降口付近でのあいさつ運動を利用して、服装指導や交通安全指導を実施する。	3.6	苦情の件数にかかわらず、登下校におけるマナーにおいては、HR活動、学年集会、全校集会などを利用して、啓発し指導し続けていく。
			③	安心・安全な学校づくり	さまざまな機会を通じて、他者への敬愛の心を育み、自分の行動や言動の影響を考え、いじめのない学校を目指す。	6	いじめまたはいじめに準ずる行為が発生した場合、「いじめ対応チーム」が中心となって、職員が連携し、迅速かつ効果的に対応する。	3.5	日常生活においての生徒同士のいたずら、いじりが、いじめとなる認識を持たせて、より人権意識が高められるよう努めていきたい。
	Hearty care, Hearty support	保健	①	生徒の成長を目指す支援	生徒との相談を通して心のケアを行い、生徒の内面的な成長を支援する。	7	保健室での相談内容を担任・学年に伝え、個々の生徒の指導に活かせるようサポートする。必要に応じ、キャンパスカウンセラーとの教育相談とも連携する。	3.6	今後も継続して現在の取り組みを進めたい。また、学年はもとより、必要に応じてその他の分掌・保護者との連絡を密にして、連携して問題に対応していく。
			②	保健・安全	正しい生活習慣を身につけ、安全で健康的な生活が保持・増進できるように生徒を支援する。	8	学校医や家庭との連携を密にしながら生徒の健康保持・増進に留意する。個々の症状に応じた応急処置や保健指導・助言を行う。感染症について注意を喚起し、集団感染の予防に努める。	3.5	左記にあることを継続して取り組む。生徒の怪我・体調不良・心の相談など多岐にわたった保健室利用が多く、現在の養護教諭複数配置が不可欠な状態になっている。この体制の維持も含めた上で、より細やかな取り組みをしていきたい。
			③	学校環境衛生	安全で健康的な学校生活が送れるように、学習環境の保全・管理を行う。	9	学校環境衛生検査を行い、必要に応じて迅速な改善を要請する。	3.4	適切な時期に諸検査ができるように要請する。また学校薬剤師等のアドバイスをより活用したい。
	夢にチャレンジ	進路指導	①	進路希望の実現	生徒一人ひとりの自己実現を目指した進路希望の実現をはかる。	10	昼休み等に進路指導室に待機して、生徒の質問に速やかに対応する。	3.3	進路指導室が遠くなったが、できるだけ教員が待機し、生徒に対応できるように努める。
						11	就職・公務員・医療看護系など少数の希望生徒に対して、必要に応じた指導を行う。	3.4	生徒の実態に応じて、必要な指導を行っていく。
			①	進路選択の支援	生徒が主体的に進路を選択・決定できるよう支援する。	12	必要な資料および情報を提供する。また、進路希望調査を実施し、進研模試等のデータを提供する。	3.4	資料を精選し、より有効な情報を提供するように努めたい。
			③	進路情報の提供	各部・委員会と連携しながら、有用な進路情報を生徒・教職員に提供する。	13	学年との連携を密にし、拡大進路部会・進路研修会を開催する。とくに、第3学年の学年会議に毎回出席する。	3.4	今後も、より連携を強化するように努めたい。
						14	進路関係資料の有効活用をはかる。また、月1回進路通信を発行して情報を発信していく。	3.4	今後も、継続して行っていく。

教育課程・情報・図書	やればできる	教務・情報	①	基礎基本、個に応じた指導	目指す学校像に応じた教育課程を検討する。 また、生徒の現状に応じた授業展開（少人数授業、チームティーチング）の工夫を行う。	15	「本校の特色」についての議論を受けて、平成29年度入学生の教育課程を検討、作成する。	3.3	各類型について、平成29年度教育課程を検討し、さらに平成30年度入学生の教育課程を検討し、作成する。
						16	生徒の力に応じた基礎学力をつけるために少人数授業、習熟度別授業、チームティーチングを実施する。	3.3	生徒の力に応じた学力をつけるために、より効果的に少人数授業、習熟度別授業、チームティーチングを実施する。
			②	学力向上	シラバスを作成することで、各教科の目標や評価基準を明確にし、授業を年中公開する。 また、1、2学年において組織的に学力向上に向けた取り組みを行う。	17	教室環境整備、授業規律の確立の一助として、年中授業を公開するとともに、年間2回「伊川谷学び合い週間」を実施する。	3.6	年中授業を公開するとともに、本年度同様、年間2回「伊川谷学び合い週間」を実施し、2学期に全職員参加を前提とした研究授業、研究会を実施する。
						18	家庭学習の習慣化を目指し、1学年において、週末課題、小テスト等を実施する。	3.5	家庭学習の習慣化、基礎学力の向上を目指し、本年度と同様、1学年において、学力向上の取り組みを実施する。
						19	進路に対する意識の高揚を目指し、2学年において、コミュニケーション能力の向上の取組を実施する。	3.1	進路に対する意識を高めるため、2学年において、学力向上の取り組みを実施する。
			③	情報管理体制の確立	教職員のICT活用能力の向上を図る。	20	教職員の情報活用能力、情報セキュリティ能力及びモラル向上のため日常の相談体制を充実させるとともに、校内研修会を開催する。	3.3	本年度はICTの研修会を1度しか実施できなかったため、来年度は校内研修会の充実を図る。
					データの一元化に着手する。	21	成績、指導要録、調査書など生徒情報の重複データを一元化する案を作成する。	3.2	成績入力簡素化をはかり、進路データとの連携を実現する。
				本校の広報	インターネットを活用して、本校のPRを図る。	22	本校のWebページに特色、学校行事、部活動等多様な情報を発信する。	3.5	学校サイトの充実及びスマートフォン向けサイトの作成を行い、さらに幅広くアピールする。
			④	読書習慣の確立	図書館の有効利用を考え、本に親しむ習慣を確立させる。	23	蔵書のバーコード化をさらに進める。また図書館便り等を発行し、読書への興味をわかせる。	3.5	引き続き蔵書のバーコード化を進める。さらに広報活動を活発にし、図書委員と共に読書に親しんでもらえるような取り組みを行っていく。

学年経営	未来を描こう	新1学年	①	規範意識と自主性の育成	自分で考えて行動できる自律的な生徒・自律的な集団を育てる。	24	集団生活の中で定められたさまざまな規則やルールの意味を理解し、集団の中で自分がとるべき行動を理解する。なすべき事と、してはいけない事を自分自身で考え、自らすすんで行動に移すことができる。	3.2	学年集会、学年行事、HRなどあらゆる機会を利用して、規則・ルールの意義や目的を理解させる。日々の生活の中で、予鈴登校、授業前の入室から授業を受ける準備を迅速に行うよう指導を徹底し、約束を守る、時間を守るなど集団生活に欠かせない基本ルールを実践させる。
			②	自尊感情の育成ならびに他者を尊重する姿勢の育成	自分たちの可能性を信じるとともに、お互いを尊重し合う態度を育成する。	25	自信と自尊心を育て、自分自身の可能性をや自分を大切にすることを常に忘れず行動する。集団の中にあつて、自分自身のあり方、立場、役割を的確に判断し、自分と他者との関係のなかで、自分の言動が周囲に与える影響を意識できる。	3.3	友達との人間関係を意識したり、意思疎通をはかる機会をクラスや学年の行事でできるだけ設定し、生徒が果たせる役割を見出しながら、達成感を味わえる活動を取り入れていく。
			③	基本的生活習慣の確立・基礎学力の向上	規則正しい生活を送るとともに、学習を高校生活の中心に据えることができる生徒を育てる。	26	規則正しい生活リズムで毎日を過ごす。予習・復習を中心に家庭学習が習慣化し、自宅学習が当たり前になる。学習への興味・関心を持ち、意欲を持って取り組むとともに、学習状況を振り返り、客観的に自己評価できる。	3.2	2学期までに予鈴登校の習慣をほぼ確立することができており、このまま卒業まで維持できるよう時間厳守の指導を継続させる。LHRなどの時間を活用してワークシートなどを使って、週単位、月単位で学習計画をたて、学習状況を振り返る機会を設ける。
	（当たり前前のごことを、バカにせず、ちゃんとする）ABC	新2学年（40回生）	①	自主性・自律性の育成	自分で考え行動する生徒を育てる。	27	文章をじっくりと読み、人の話を素直に聞き、その言葉の意味を正確に理解できる。自分の置かれている立場や状況を見極め、今何をすべきか考えて行動ができる。結果を予測して行動ができる。して良いことと悪いことの判断がきっちりできる。自分の考えや気持ちを、正確に言葉や文章で表現できる。	3.2	課題や提出物等の期限を守り必ず提出することや、登下校のみならず移動や集合において時間を厳守することを徹底して意識させる。守れなかった場合はその都度呼び出して指導する。
			②	自尊感情の育成ならびに他者を尊重する姿勢の育成	集団の中での自分あり方を意識できる生徒を育てる。	28	相手の立場に立つて物事を考えることができ、それによって自分の行動が規定できる。他人に迷惑をかけず、不快感を与えないで行動ができる。バス等の乗車マナーや交通ルールを守って登下校ができる。生活習慣を整え、時間の管理ができる。宿題や提出物等の期限を守り、登校、始業の時間に遅れない。校則の意味を知り、髪型や服装など、違反しないように心掛けること。周囲と良好なコミュニケーションをとり、互いに向上できる存在を目指す。	3.3	LHRや総合的な学習の時間等を利用して集団の中での自らのあり方について考えさせる機会をできるだけ多く設ける。学年集会等で学年全体に話しかける機会を利用し、集団を意識して行動することの大切さに気付かせる。修学旅行での打ち合わせや説明会を有効に利用する。
			②	基本的生活習慣の確立・基礎学力の向上	進路実現に向けて最大限の努力をする生徒を育てる。	29	勉強をすることが高校生の本分であることを自覚し、真剣な態度で授業に臨む。予習復習等の家庭学習の定着を図る。部活動や校内行事、生徒会活動等に積極的に取り組み、多種多様な経験を積む。面談等を通じて、自分の将来について明確な目標を持つ。大学訪問や職業体験などに積極的に参加し見識を高める。日頃から挨拶や丁寧な言葉遣いができる。	3.2	卒業までの残り限られた学校生活の時間を意識させ、卒業後の進路について改めて真剣に考える機会を多く設ける。外部の業者によるガイダンス等も取り入れ、進路に対する多様な考えが持てるようにする。高校生としての基礎的な知識と教養を高めるため、全ての教科において全力で学習に取り組むよう強く働きかける。
	プレイヤーズ！	新3学年	①	基本的生活習慣の確立・基礎学力の向上	自分たちが主役であるという意識を持たせ、自分たちの将来を見据えた学校生活を心がけさせる。	30	生活指導（規範意識の向上・挨拶の励行）、学習指導（授業の尊重・補習への積極的参加）、模試全員受験（基礎学力の定着、進路意識の向上）等を通じて、自らの進路実現につながる基本的生活習慣の確立・基礎学力の向上を図る。	3.2	今一度初心に立ち帰らせ、時間の厳守・挨拶の励行・授業への集中など、当たり前前のごことを当たり前に行うことの大切さを再認識させる。放課後・早朝および冬季休業中の進学補習、センター試験事前学習等を通じて連帯感の醸成に努めるとともに、進路実現に向かって最後まで努力し続けることの大切さを理解させる。
			②	自尊感情の育成ならびに他者を尊重する姿勢の育成	自分たちの可能性を信じるとともに、お互いを尊重し合う態度を育成する。	31	各種コンテスト、各種検定、部活動等において努力している者を積極的に顕彰するだけでなく、学校生活全般において生徒の努力を見逃さずに称えることにより、自尊感情ならびにお互いを尊重し合う姿勢を育成する。	3.2	残された機会は限られてはいるが、今まで以上に学年集会・学年通信・LHR・面談などを活用して、努力している生徒をより積極的に顕彰していく。また、生徒の変化・努力を見落とすことが無いように、より一層一人ひとりの生徒に目を向けていく。
			③	自主性・自律性の育成	「自主・協同」の精神に則り、自分の頭で考えて行動できる自律的な人間・自律的な集団を目指す。	32	各種行事を通して最高学年としての自覚と責任感を持たせるだけでなく、オープンキャンパスや看護体験・福祉体験等の各種体験への積極的参加を促し、自主性・自律性を育成する。また、39回生全員が力を合わせて進路実現に向けての雰囲気作りにも努めることが、一人ひとりの進路実現につながることを意識させる。	3.4	進路実現に向けて最後まで努力し続ける生徒を、進路決定済みの生徒が応援・バックアップする雰囲気や、クラス・学年で醸成して行く。卒業式を含めた残り少ない学校生活を、伊川谷高等学校39回生としての矜持を忘れることなく過ごさせ、卒業後にも生きる「自主・共同」の精神を育成する。

外部評価（記述）	・生徒へのあらゆる指導の面で、教職員一体となった取り組みがあり高く評価できる。 ・管理職や各主任に生徒の情報がしっかりと共有されているとともに、教職員間の連携ができています。引き続き「チーム伊川谷」の精神で生徒に指導にあたっていただきたい。 ・特に評価できる点は2点で、教科指導の面においては、教科の枠を超えて全教員による研究授業が行われ、教科指導力向上が進められている点は他校にはあまり例がなく継続して行っていただきたい。また生徒指導の面においても、学年の枠にとらわれない指導が実践され、特別指導件数や近隣からの苦情の件数の減少にもつなげている。 ・「いじめ防止基本方針」について、丁寧に直し検討されている。貴校は教育目標に『「命」と「人権」を大切にし、夢に挑戦する生徒を育てる』と掲げられている。引き続き命の大切さを深く理解させるとともに他人に対する思いやりの心をはぐくんでいただきたい。また、心がこわれないように自分で自分の身を守る力（ストレスマネジメント力）も身につけさせてほしい。 ・読書指導による効果もあり、落ち着いた教育環境ができています。 ・挨拶・マナー・服装など規律ある生活習慣の指導が教職員全員でされており、生徒も身につけつつあると感じる。文化祭や授業見学にも参加させてもらったが、廊下で出会ったときなどの元気な挨拶に清々しさを感じる。
----------	--